

図2 自分たちのまち・地域を自分たちで盛り上げましょう! ~まちづくりワークショップ~

■地域まちづくりワークショップの活動

市民のまちづくりに対する思いを発揮できるように、地域の皆さんが主体となって運営する「地域まちづくりワークショップ」が平成20年度に、市内13地域に設置されました。



各ワークショップでは、それぞれのまちのマップや地域の魅力を内外に発信する情報紙の発行、まちあるき、花いっぱい運動や地域検定など、地域活性化のため、さまざまな活動を行っています。

【地域振興課 216-1214】

地域まちづくりワークショップの活動の様子は、KTSの市政広報番組(2月3日(日)9時~9時30分放送)でもご覧になれます。放送後は、市のホームページから動画で録画配信します。ぜひご覧ください【広報課 216-1133】

■鹿児島中央駅周辺一体的まちづくりワークショップの活動

さまざまな開発が進められている鹿児島中央駅周辺でも、まちづくりワークショップが活動を行っています。平成23年度から鹿児島中央駅の東口地区と西口地区の商店街や通り会、事業者の皆さんが一体となり、この地区のこれからのまちづくり活動の指針となるガイドラインの作成などに取り組んでいます。



特色を生かしつつ一体的なまちづくりを目指したい

○ワークショップでは、ガイドラインの作成に向けて、鹿児島中央駅や周辺の各通りの魅力・特色などを話し合いながら、自分たちでできること、行政の助けを必要とすることなど、地域の課題を掘り起こしています。

○各通りで、まち並みや商業形態、抱えている課題が違うため、なかなか意見がまとまらないなど難しい面もありますが、「にぎわいのあるまちにしたい」という思いはみんな同じです。これからも通りの特色を生かしながら一体的な魅力あるまちを目指して取り組んでいきたいです。



鹿下 龍馬さん (中央町19・20番街区市街地再開発準備組合理事長)

【市街地まちづくり推進課 216-1388】

図3 市民の皆さんの声をもっと市政に

■市長とふれあいトーク

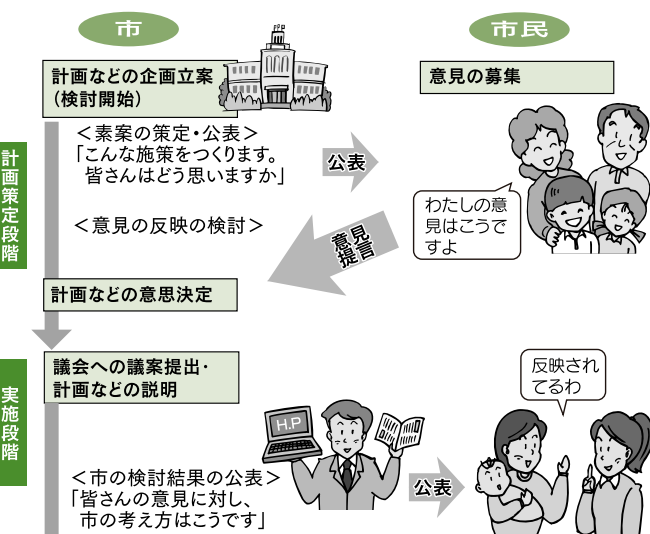
市長が地域や市民活動の場などに出向き、市民の皆さんとまちづくりなどについて気軽に語り合います。平成17年度から始まった「市長とふれあいトーク」は、これまでに78回開催し、約7000人の市民の皆さんと一緒にまちづくりを考えています。



市民の皆さんからいただいた、さまざまなご提言・ご意見は、今後の市政運営の参考にさせていただきます。

■パブリックコメント(意見公募)

市政に関する新たな取り組みを始めるとき、案の段階で、その目的や内容などを事前に公表し、広く市民の意見をお聞きする手続きのことです。

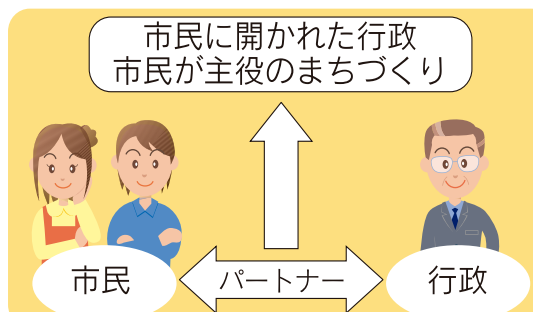


※パブリックコメントは、基本的な計画や施設をつくるなどにも実施します

【市民協働課 216-1204】



町内会では住民相互の親睦を図り、地域の絆を深めるさまざまな活動を行っています。みんなで町内会に参加しましょう



市民に開かれた行政 市民が主役のまちづくり

市民さん はい、「協働」とは、行政だけでなく、市民グループや地域の皆さんも、まちづくりの担い手になるということとです。まちづくりの主役は、市民の皆さんです。「自分たちのまちは自分たちでつくる」という意識を持つことが大切です。

民男さん 近年、「協働」という言葉をよく耳にします。そもそも「協働」ってどういうことですか。

「協働」のまちづくりってどういうこと? 本市では「市民参画の推進」と「市民活動の促進」の2つの柱をたてて、市民の皆さんとの協働・連携のまちづくりを進めています。地域でのまちづくりに関心のある民男さんと一緒に、市職員の子子さんに話を聞いてみましょう。



民男さん そうですね。私たち一人一人がまちづくりに関心を持って、できることを少しずつでも取り組んでいくことが大切ですね。でも、個人一人の力には限界がありますよね。

民男さん 行政だけでなく、民間の団体もまちづくりに深く関わっているんですね。

民男さん そうですね。活動が活発化してきているNPO法人や町内会などの市民グループが、行政と一緒にさまざまな課題に取り組むことで、地域の実情に応じたきめ細やかな対応が期待できます。自助・共助・公助のバランスを踏まえた協働による地域づくりが大切ですね。

民男さん 「NPO」という言葉もよく聞きますね。どのような活動を行っているんですか。

民男さん 「NPO」とは、Non-Profit Organizationの略で、民間の非営利組織のことです。このうち法人格を取得しているのが「NPO法人」で、市内に

「地域コミュニティ」って何? 民男さん 「地域での活動」といえば、町内会が身近な団体として挙げられますよね。でも、加入者や地域行事への参加者が少なく、地域での住民同士のつながりが弱くなってきていると聞きます。

民男さん 「地域での活動」といえば、町内会が身近な団体として挙げられますよね。でも、加入者や地域行事への参加者が少なく、地域での住民同士のつながりが弱くなってきていると聞きます。

市民が主役のまちづくりのために 民男さん 市内各地で、地域主体のまちづくりが行われているんですね。このほかに、市としては、どのような取り組みを行っているんですか。

民男さん 市政に関する情報を市民の皆さんと共有し、広く市民の皆さんの声を聴く機会を充実させるため、「市長とふれあいトーク」や「パブリックコメント手続」などを実施しています。

民男さん 町内会などのほかに、地域での活動に取り組んでいる団体などがありますか。

民男さん 地域の皆さんが主体となって運営する「地域まちづくりワークショップ」や、中心市街地の活性化を図るためのワークショップ活動なども行われています。

図1 地域コミュニティの活性化に向けて

本市では、「鹿児島市コミュニティビジョン」に基づき、「共に助け合い、みんなでつくる活力ある地域コミュニティ」を目指して、小学校区単位の地域コミュニティ協議会の設立支援などのモデル事業を行っています。

今年度は、モデル地域として、市内3地域(中名校区・八幡校区・平川校区)で地域コミュニティ協議会が設立・登録されました。地域コミュニティ協議会では、地域の多様な人材や資源を活用して、地域の課題を発見・解決する取り組みを行います。

「住みたい」と思ってもらえるまちにしたい
○平川校区は、以前から校区公民館運営審議会などの組織が確立して、校区での活動を活発に行っていました。そこに企業や学校が加わるような形で、「平川まちづくり協議会」が発足しました。
○企業や学校などが加わったことで、これまで以上に連携して、さまざまな取り組みができるようになって期待しています。
○また、協議会の運営にあたっては、特定の人だけに負担がかからないように、みんなで地域を盛り上げていくために、地域の皆さんへの啓発も必要だと感じています。
○この地域で生活する皆さんと一緒に、他の人にも平川校区に「住みたい」と思ってもらえるようなまちにできるように取り組んでいきたいです。

みんなで目指す「地域コミュニティ」の姿とは

